

AMD A 中学高校生会 X 町内中高校生が交流授業

A M D A 中学高校生会(岡山県)と大方高校、佐賀中学校、大方中学校の子どもたちが8月24日(火)、オンラインで防災交流を行いました。

この交流は平成29年から毎年1回行われているもので、これまで非常食と一緒に作ったり、避難訓練を行うなどの取組がされてきました。

昨年引き続きオンラインでの交流となった今回。宮城県気仙沼市の南町紫神社前商店街事務局長の坂本さんから東日本大震災の当時の被災状況や復興についての講話があった後、各団体から活動の報告がありました。

大方高校からは、地域創造コースの2年生4名が参加しており、「H U G (避難所運営ゲーム)」や住民交流会「未来へのメモワール(※)」などについて、これまでの取



活動報告をする大方高校生ら

組の紹介が行われました。

参加した同校2年生の浜田小町さんは、「講演の中で、再会はずべての不安をとりのぞくという言葉が印象に残っている。防災に関わらず、今日の学びをいろいろな場面で活かしていきたい」と話しました。

※災害が起こった時、残したいものは何かを考える活動。防災活動において、知識やノウハウを学ぶだけでなく、何を守るために行うものかを考える。

JICA 四国防災研修オンラインツアー

JICA 四国防の長期研修生として四国内の大学へ留学をしている研修生7名が8月30日(月)・31日(火)、防災を中心とした黒潮町の取組やまちづくりを学ぼうと「JICA 四国防長期研修生黒潮町防災視察オンラインツアー」に参加しました。

ツアーは全てオンライン(生中継)で実施。30日(月)は、松本町長による「千年に耐えられるまちづくりをめざして」と題した講演から始まり、その後、佐賀津波避難タワーの視察を行いました。

また、31日(火)には、砂浜美術館(入野の浜を中継地点とし、同館のコンセプトや考え方を視察。

その後、大方高校を会場に、地域創造コース2年生13名と「未来へのメモワール」をテーマにし、「災害が起きても未来に残したいもの」を研修員と高校生が意見交換をしました。研修生からは、「聖書」や「コンピュータ」、「日本の手工芸品」などといった意見があり、防災を通じた異文化の交流ともなりました。

参加した研修員のサノゴ・ベマさん(出身国・マリ)は、「避難タワーが特に驚いたし、住民の方たちが防災活動へ参加していて備えが素晴らしいと感じた」と話しました。



研修生の未来へ残したいものを聞く生徒ら

松田弦さんギター演奏を子どもたちへ

クラシックギタリスト・松田弦さん(有井川出身)が今年6月から町内小中学校へ赴き、ギター演奏を披露しています。

この取組は、「令和3年度文化芸術による子ども育成総合事業」(文化庁)を活用したものです。

9月8日(水)には、入野小学校3、6年生が計8曲の演奏を聴きました。松田さんは、「人間のようには言葉を持たないギターでどうやって感情を表現する?」など、演奏の合間に話を交えながら子どもたちへ語り掛けていました。

6年生の樋口琴子さんは、「風をテーマにした曲が良かった。また聴いてみたい」と感想を話しました。

また、松田さんは、「自分自身、小さい頃、生に触れる機会が少なかったが、この活動を通じて、子どもたちに少しでも生に触れてもらい、夢の選択肢が広がることにもつながれば」と話してくれました。



松田さんの演奏を聴く子どもたち